

義務教育学校における 教育内容の確立	中期（3年間） 経営目標	短期（今年度） 経営目標（2/3）	目標達成のための手立て	評価指標	自己評価		学校関係者評価		改善計画
					評価	結果と課題の説明	適正	意見等	改善案
確かな学力	変化の激しい社会を生き抜くために必要な資質・能力を育成する。	児童生徒が、深い学びを自覚し、学びに向かい続ける授業づくりを進める。	自己の学びを振り返る場の推進 ・各教科における振り返り ・「学びのカード」の活用 ・児童生徒、教職員での共有 校内研修の充実 ・授業観察と改善 ・授業での問いの工夫（問いの3階層）	・本校で育成したい資質・能力に係るアンケート調査（児童生徒、職員）の肯定的回答80%以上 ・授業観察者の「評価シート」による肯定的回答75%以上を継続	A	・資質・能力に関するアンケート調査の肯定的回答の平均は、児童生徒：73%、職員：73%であった。資質・能力別に見ると、主体性と協働性に関する設問に対する児童生徒の肯定的回答が85%であった。一方で情報収集力は59%と低かった。昨年度より向上しているもの、課題解決のために資料を集めたり、取材をしたりする活動が少なかったことが要因であると考え、以上の結果から達成度は91で、評価はBである。 ・「評価シート」による肯定的回答は89%であった。また、本年度的に研修機会を開催しており、外部の先生方からも児童生徒が主体的に協働的な学びを促す授業展開に対して肯定的な意見が複数多く見られた。以上の結果から達成度は118で評価はAである。	○	・資質・能力については、昨年度課題だった自己肯定感や自己効力感が上がっている。地域に開かれた教育活動の成果である。 ・学年が上がるごとに肯定的な回答が低下しているが、自己を認識し、評価が厳しくなったと捉えられる。反対に、学年が上がるとともに、人間性が高まっている。主体性や協働性の高まりとともに、児童生徒と接することで感じる。学期ごとにおこなっている評価を活用して成果と課題を整理し、系統的に継続的な取り組みを行ってほしい。さらに、児童生徒自身も自分の資質・能力を児童生徒の姿を見せることで保護者や地域へ伝えてほしい。 ・ことは探究科では、7年生の数値が他学年と比べて低いことが気になる。全学年を通して、同じように言葉の力を付けてほしい。また、ことはの習得は、ことは探究科の授業だけでなく、日常的に様々な人とコミュニケーションをとり、会話を通して身に付けてほしい。 ・基礎学力の定着、特に、算数・数学の力を高めてほしい。ものづくりには、必ず必要となる力である。下学年での課題を把握し、次学年で課題を克服する取り組みや教育活動を繰り返し、9年生の卒業時点に必要な学力を身に付けて卒業させたい。	・児童生徒の資質・能力の向上のために以下の取組みを行う。 ①資質・能力の厳選 これまでの8つの視点をキャリア教育の視点を加味した上で絞り込み、児童生徒及び教職員、地域、保護者と共有する。 ②振り返りの充実 学びのカードの共有を引き続き行う。また、授業後の振り返りの際に、視点を明確にして書かせる。 ③各教科・総合的な学習の時間の授業改善 情報収集力を高めるために、「問い」による必然性のある授業展開を全教職員で行う。資料集めや取材したことの表現までを「単元を貫く問い」として設定した授業づくりを校内授業研修などを通して行い、教職員の授業力向上を目指す。 ・基礎学力を定着させるために以下の取組みを行う。 ①朝及び帰りの学活での補充学習を確実に実施する。 ②前期課程は異年齢集団による教えあひタイム、後期課程は学びタイムを計画する。
		基礎学力の定着と向上を図る。	ことば探究科による言語技術の習得 学力分析による授業改善 ICTを活用した授業づくり	・言語技術を習得し、5または3段階ルーブリックの評定が昨年度より1段階以上向上した児童生徒 30%以上 ・全国学力・学習状況調査および校内学力調査等の平均正答率が30%未満の児童生徒 15%未満	A	・言語技術は1年間で1段階以上向上した児童生徒は71%であった。語彙を認識したことと数値が上昇した。学年末のテストでも引き続き矯正を行っていく。達成度は236で評価はAである。 ・全国学力・学習状況調査及び校内学力調査の平均通過率及び平均正答率が30%未満の児童生徒は以下の通りである。 国語6%、算数・数学11% 目標を達成した。各学年で課題まみれられるが、全国学力・学習状況調査の全国平均正答率と本校の正答率との差を比較すると、9年生数学では、6年時よりも4.2P 上昇している。以上の結果から達成度は107であり、評価はAである。	○		
地域と創る学校	地域と共に創造する児童生徒を育成する。	発達段階に応じて、地域学習を展開し、地域へ啓発をする。	キャリア教育を中核とした新カリキュラムを開発・実践する	・地域に開かれた教育課程に係るアンケート調査とキャリア教育に係るアンケート調査（児童生徒、保護者、地域住民）の肯定的回答80%以上 ・キャリア通信またはポスターの学期1回の発行	B	・地域に開かれた教育課程に係るアンケート調査において、肯定的回答は77%であった。学園・学級通信等で児童生徒が地域や企業と学習を進めていることをより周知していく。 ・キャリア教育に係るアンケート調査において「自己理解」に関する項目の肯定的回答の平均値は86%であった。しかし、「課題解決力」に関する項目の肯定的回答は65%と低い。分からなかったり失敗したりしたとき、その改善方法を考えて、改善しようとする意欲がもてないようである。 ・キャリア通信を毎学期発行した。通信の配布方法や掲示場所を再検討し学校の取組をより広く周知する。以上の結果から達成度は96であり、評価はBである。	○	・地域に開かれた教育課程については、保護者や地域の理解度が低い。広報していく必要性を感じる。学校からはもちろんであるが、PTA や学校運営協議会などの手助けも必要である。今後、学校LINEで児童生徒の様子を伝えるなど、PTA と学校運営協議会委員がバックアップしていくので、情報公開について、確認してほしい。 ・地域行事に参画については、コロナ禍で減少している。地域行事も少ない。生徒の地域行事への参画という目標は掲げつつ、できるときにできることをしていくことを続ける。	・地域に開かれた教育課程の理解・促進のために以下の取組みを行う。 ①学園通信、学級通信、キャリア教育通信の発行を継続して行い、保護者や地域へ発信する。 ②学校LINEを活用し、個人情報に留意しながら児童生徒の様子を伝えていく。 ③学校での学びを家庭（保護者）につなげて、学びが広がったり深まったりする取組みについて校内研修を行い、実践していく。 ・地域行事に参画について、以下の取組みを行う。 ①次年度も6月に実施している町内会の方々と児童生徒の協議会を実施する。そこで決定したことを町内会ごとに児童生徒に周知する時間を確保する。 ②地域の行事などを紹介するコーナーを、むらさきラボやエントランスに設け、児童生徒が自分たちの地域について知る場を設ける。 ③児童生徒会の活動として、地域へ参画する取組みを行う。
		児童生徒が地域と協働及び参画しようとする地域づくりを進める。	C S各組織や地域・企業と連携し、地域学習の充実を図る。 学校運営協議会（地域活動部会）や産業界、他校との連携充実を図る。	・地域行事や地域産業界と協働する活動へ参加した児童生徒90%以上 ・地域と協働し、活動に参画した生徒80%以上	B	・地域行事や地域産業界と協働する活動への参画は92%であった。6年生は3学期ごとの学習を計画している。以上の結果から達成度は102であり評価はAである。 地域と協働し、活動に参画した生徒は37%であった。コロナ禍による地域行事の中止や縮小などが影響し、計画通りに参画できない状況でもあった。以上の結果から達成度は46であり評価はCである。	○		